

「今、私の晴雨計は！④」

「穏やかならざる正月」

平山征夫

明けましてお目出とうござい  
ます。また新しい年が明けた。す  
べてをリシャッフルして真っ白  
な気持ちで臨もうと思ったが、体  
の方がそうはいかなかった。

昨年12月大学の理事会で私の  
本年三月一杯での学長退任が了  
承されたが、その途端歯と腰が痛  
んだ。まるで潮時が来たようだっ  
た。特に腰は暮れの24日(日)の  
朝起きたら右の腰から太ももが  
痛くて歩行困難となった。我慢し  
て翌月曜日に大学病院に行った  
ら整形外科はその日休業、別の病

院を当たっていたら、見かねた案  
内係の方が救急外来扱いで願  
いしてくれ、家で休んでいた先生  
が急遽駆け付け、レントゲンを撮  
ったり、問診してくれたりして  
くれた。26日の夕方には新幹線  
で上京、年末年始は孫を含めた家族  
全員で川崎(小田急線の柿生)の  
自宅で過ごす予定になっていた  
のだが、一瞬、上京困難から新潟  
で一人正月を過ごすことになる  
のではとの不安が走った。食料は  
餅くらいしかないし、どうしよう  
と食い物の心配がまず頭に浮か  
んだ。人間は生き物だから当然な  
のだろう。

に収まり、歩行も何とか可能にな  
った。効き目に驚いたが、お蔭で  
予定通り上京し家族に合流出来、  
餓死の心配がなくなりホッとし  
たが、私を迎えた妻と娘たちの対  
応は厳しかった。「日頃からあれ  
だけ背中を伸ばしなさいと言っ  
ているのにしないからよ」「永年  
椅子に座っているだけで、運動や  
家事の手伝いなどしないからよ」  
など、一斉に厳しい指摘が飛ん  
できた。「大丈夫、無理しないでね！」  
と言う労わりの言葉を期待して  
いた私には、予想外の厳しい年明  
けとなった。リシャッフルどころ  
ではない。

で読書を兼ねた日向ぼっここと、二  
歳半近くになりやんちゃ盛りの  
孫の相手でのんびり過ごした。女  
性陣からの罵詈雑言(?)を除け  
ば至福のひと時だった。そんな折、  
正月休みに読もうと思つて新潟  
から持参した本の表紙帯の言葉  
が目に入った。「本は男に似てい  
る。一生のものにもなるし、鍋敷  
きにもなる。」とあり、その横に  
「マーリーの法則より」とあった。  
この本は新潟の「FM PORT」の人  
気ナビゲーターの遠藤麻理さん  
の随筆集「自望自棄」である。今、  
新潟で話題となっている本だ。彼  
女の担当する「モーニングゲー  
ト」という番組の木曜日には、本  
学の越智教授が登場する「オチ付  
けニッポン」と言う超人気番組が

痛み止めの薬は効くのだろう  
か危惧しながら夕食後飲んで就  
寝、翌朝起きたら痛みは半分以下

無理出来ないので、恒例の美術  
館めぐりは中止、駅まで新聞を買  
いに散歩する程度とし、後は窓辺

の越智教授が登場する「オチ付  
けニッポン」と言う超人気番組が

ある。昨年秋、本学の同窓会である「みずき会」の20周年のイベントとして、この番組の公開収録にゲスト出演させられたが、大勢のリスナーが会場のホテルに来て

りないように、遠藤さんの激辛（本人は毒まんじゅうと言っているようだが・・・）の話ぶりに魅せられ、楽しんでる。勿論、私もその毒牙に架かった一人だ。

一生ものにもなるし、OFF商品にもなる」だ。勿論添え書きの「マリー」の法則」は、世の中で一般的にあるものではなく、遠藤真理さんが編み出した法則の意だ。一

な年金生活者になることについての認識があまりに甘かったことだ。時間が出来ても全部自分の好きなことに使える時間ではなく、増えた分これまでより家事の手伝いなどしないとOFF商品にされるということを自覚しなくてはならないということだ。中々意義深い(?)正月休日だった。

いてその人気振りにびっくりした(尤も私は同じ会の別のイベントで、私がサングラスをかけてブラタモリ風にセリフを言うものがあり、「タモリそっくり」と皆

この本の表紙は女性の顔があっさりしたタッチで描かれ、帯がその顔半分を隠す様にデザインされている。なかなか洒落ている。その帯に書かれたかの法則を見

て、このことを解説してくれていた。「マリー」の法則」とも「ボブ・マーリーの名言」とも関係は

なさそうだ。

に言われたことの方が衝撃的だった。それで分かったのだが、頭が薄いおっさんがサングラスを掛ければ大抵タモリになれる)。

かと思った。「男は本に似ている。一生のものにもなるし・・・」で止まってしまった。私なら恐妻家で敷かれていたので「鍋敷き」の

ブ・マーリーの名言」とも関係はなさそうだ。

遠藤さんは女性には珍しく(近年は)そうとも言い切れないが：)

ままで丁度よいのだが、それでは一般的ではない。正月の至福のひと時、色々そのことを考えた。一

定だったが、つい家庭内もめぐると遠藤真理さんの本の話になっ

その話ぶりはエスプリー一杯であると同時に毒槍も一杯だ。リスナーは刺身にわさびが無いと物足

応の結論は「男は本に似ている。

ことと、四月から定職のない自由

(平成30年1月15日)